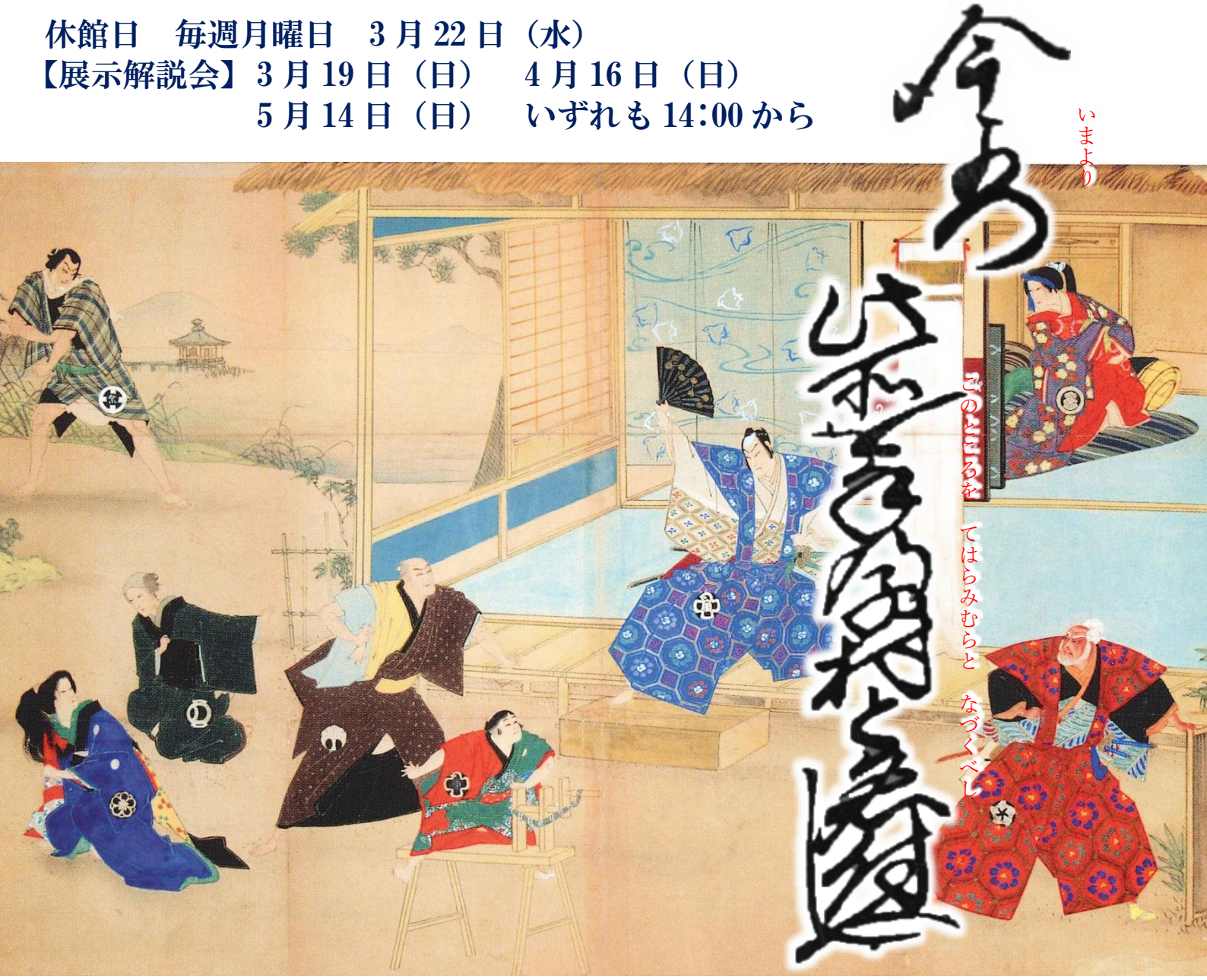
小地域展

手原の歴史と文化

会期　3月18日（土）～　5月14日（日）

休館日　毎週月曜日　3月22日（水）
【展示解説会】3月19日（日）　4月16日（日）
5月14日（日）　いずれも14:00から



▲歌舞伎「源平布引滝」絵看板（近代／館蔵　里内文庫№357-3）
▲文字部分）「源平布引滝」床本部分（今より此所を手孕村と名付べし）
（寛延２年／館蔵里内文庫№227-8）

栗東歴史民俗博物館

〒520-3016　滋賀県栗東市小野223-8TEL　077-554-2733/FAX　077-554-2755
URL　http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/

関連行事　歴史講座「夢幻軌道を歩く-手原駅開業100年と関西鉄道幻の路線-」
日時　3月25日（土）14:00～15:30
場所　栗東歴史民俗博物館　研修室

申込方法はこちら→

小地域展

手原の歴史と文化

栗東市手原地区は、地名の由来が舞台の演目のなかに登場する珍しい地域です。人形浄瑠璃や歌舞伎の演目『源平布引滝』の「九郎助住家の段」では舞台となった村の名を「今より此所を手孕村と名付べし」というセリフが登場します。フィクションである『源平布引滝』のセリフをそのまま真実と認めることは難しいですが、この物語が初めて舞台にかかった寛延２年（1749）には近江国にある小さな手原村のことが広く知られていたことが分かります。

こうした背景には手原が交通の要衝であったことがあります。江戸時代の手原村を東西に通過していた東海道は、この時代の幹線道路であり、日々多くの人が往来していました。またこの東海道は古代にも遡るもので、この周囲には奈良時代の大きな寺院、手原廃寺やそれに付随する建物の痕跡も発掘調査によって確認されています。

▲　手原村絵図（江戸時代／館蔵　里内文庫№398I-1）

近代以降は大正 11 年（1922）に開業した手原駅、昭和 38 年（1963）に開通した日本初の高速道路、名神高速道路の東端のインターチェンジ、栗東インターチェンジの出入り口や名神高速道路開業にともなって設けられた国道１号、８号の分岐点などが手原地区のなかに密集することになり、栗東市域の玄関口となっていきました。

小地域展「手原の歴史と文化」では、長い歴史を有する手原地区の歴史と文化を、豊富な資料をもとに紹介します。

また、期間中昨年 11 月に開業 100 年を迎えた手原駅に関する歴史講座を行います。

上）　煙草引札（明治時代／館蔵　里内文庫№312-12）
右）呉服店引札（明治 36 年／館蔵　里内文庫№312-10）

関連行事　歴史講座「夢幻軌道を歩く-手原駅開業 100 年と関西鉄道幻の路線-」

日時　3 月 25 日（土）14:00～15:30　　場所　栗東歴史民俗博物館　研修室
講師　浅井　佳穂氏（京都新聞編集局報道部記者）
定員　60 人（要申込･先着順）＊3/6 より申込受付開始　申込方法はこちら→